

2002年3月25日発行

ひののとしょかんを 考える会通信

第 4 号



も く じ

としょかんと私	1
小川町立図書館見学記	1
『中央図書館の役割・機能について —町田市立図書館の場合—』の報告	3
「図書館の会」参加報告	5
日野市立中央図書館見学報告	5
都立多摩図書館があぶない！	6
日野の図書館を考える会活動報告	7

としょかんと私

原 ヒナ子(多摩平在住)

41年前、多摩平に越して来ました。近くの桑畑と未舗装の道から舞い上がる土ぼこりは、時として隣家も霞む程のすごさでした。まだ分譲地も団地もばつばつ建ち始めていた頃です。文化果つる処の感がして、心細かったのを思い出します。それから何年かして、「ぼくのおじさん」のメロディーにのってひまわり号がやって来ました。音楽が聞こえる前から、子供達は公園横の駐車場へ目を輝かしてやって来ます。我が家の子供達も、鳥や昆虫の図鑑など借りて来ては、いそいそとその日一日で読破？その頃の私は芝木好子、円

地文子と女流作家のものを借りまくっていたようです。おかげで毎晩おそい主の帰りも苦にならなかったのです。

そして中央図書館の開館！開架式の明るい図書館に足を踏み入れた時の幸せ感は忘れられません。大きなガラス窓、そこから見える緑の木々、このたたずまいは大好きでした。

レファレンス室での調べものも、戦時下に女学生時代を送った私には、アカデミックな場所に身を置いていると云うただそれだけで単純に嬉しかったのです。

後、何年かして、図書館迄出掛けて行けなくなった

らパソコンでデータ検索をして、本を届けて貰う、そんな夢のような事は、実現しないでしょうけれど、又、あの音楽にのって“ひまわり号”が廻って来て…なんて想像して見るのも楽しい事です。

今都内のあちこちの図書館で、予算の削られるのは当たり前、存続の危機すら伝えられて来ています。あの40年前の文化果つる処と云う思いを、図書館がどんなに勇気づけ心豊かにして呉れたか、私達の心のオアシスは永遠に、こんこんと水の溢れる緑の場所であって欲しいのです。

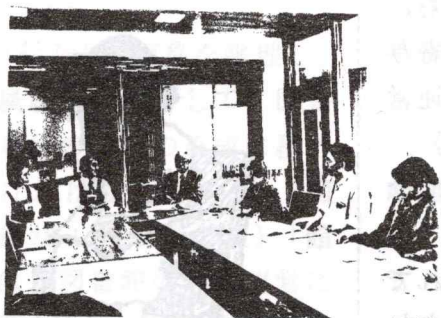
小川町立図書館見学記



ニューヨークで起きた痛ましい大事件に衝撃を受けてからまだ間もない9月26日(水)、日野の図書館を考える会のメンバー9名と特別参加者2名、計11名で、5月に開館したばかりの埼玉県小川町立図書館を見学してきました。

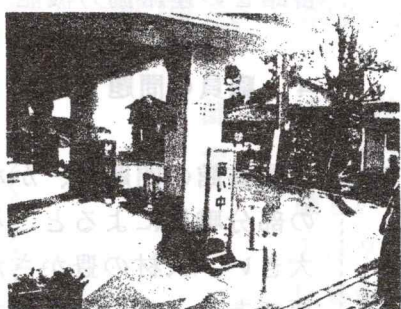
昨年の浦安市立図書館に次いで2回目の見学会、八高線に揺られてののんびりした旅でしたが、人口38,000人の紙漉で有名な小川町の素敵な図書館に参加者一同終始見とれてしまいました。10年越しの町民の夢が叶えられたと吉田館長さんからお聴きして、そのねばり強い取り組みに驚かされると共に、日野の図書館を考える会も是非こうした息の長い活動にしたいものだと思いを新たにしました次第です。以下、参加者からの一口感想を掲載します。

・街にマッチした建物できれいでした。地方の図書館は公民館機能も持った社会教育の現場という感じ。都市型にはない暖かい雰囲気が楽しかった。(K・T)



＜館長さんたちとの懇談＞

・今図書館は厳しい状況に追い込まれているが、その中で地方の方が独自性を発揮していると思った。地域の住民と図書館がつながってコミュニケーションを取る場として図書館を利用する。これもこれからの図書館の新しい形なのかも知れない。職員の粘り強い働きかけで出来た図書館、いいですね。(H・H)

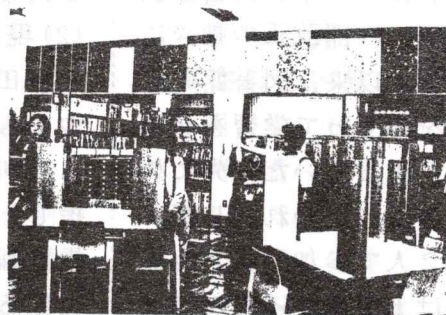


＜「商い中」の看板が＞

・地域の特産品を生かした館内のインテリア、素敵だなあと思った。都市の図書館と

はひと味違う地域に密着した図書館。目の不自由な人が町から支給されたセンサーのついた白杖をついて自分で図書館にくる。入口でブザーがなって受け付けカウンターに赤ランプがついて職員が入口まで迎えに出ていく。なんとも暖かい図書館でした。

(T・K)



＜児童コーナー＞

・図書館のまわりに見える山の連なりを背景にして、古い街並みに溶け込んだ白壁に瓦屋根。地域のコミュニティセンターとしての機能も持っているようなコーナーも各所に作られていた。人口に比例した蔵書数がどの位がよいかはわからないが、蔵書が増えたときのスペースはどうなるかなと思った。しかし、特徴的な地域の図書館としては町の人たちに利用され伸びていくだろうな、情熱を持った職員がいるのですから。

(M・K)

・当初から職員として関わられていた神原さんは、日野の図書館にも何回か見学に来られるなど、小川町にとって必要な図書館の姿を求めて、実に熱心に取り組まれてこられた方です。その長年のご苦勞がかなえられ本当によかったと思います。(H・I)

『中央図書館の役割・機能について ～町田市立図書館の場合～』の報告

2001年8月30日、
「図書館の会」主催の学習
会がルネ小平で行われまし
た。私は一昨年、図書館設
置条例の一部改正の動きに
関わって以来、図書館のあ
り方をめぐって学習を深め
たいと思っていた矢先に久
保田さんに誘われ、日野か
らは2人で参加しました。
当日は上記のタイトルで、
町田市立図書館の副館長、
手嶋孝典さんのお話を伺い
ました。以下にレジュメに
基づいて報告します。

1. 町田市立図書館の奉仕 理念

(1) 中央図書館建設計画当 時の理念

「町田市立図書館は、市
民に資料及び施設を提供す
ることによって市民の学習
する権利を保障し、さらに
市民の自治意識の形成や地



域教育力の向上に役立ち、
広く市民文化の発展に寄与
することを目的として運営
される。」(1986年)

(2) 現在検討中の奉仕理念

町田市立図書館は、「い
つでも、どこでも、だれで
も」利用できる図書館を目
指し、「町田市立図書館整
備計画」で、以下の理念を
掲げる。(検討中)

- ①市民生活とまちづくりに
役立つ図書館
- ②市民とともに成長する図
書館
- ③市民に信頼される図書館
- ④明日を担う子どもたちを
育む図書館

2. 町田市立図書館のサー ビス (検討中)

- ⑤資料の提供
- ⑥情報の提供
- ⑦町田市に関する資料・情
報の提供(地域資料)
- ⑧施設の提供
- ⑨集会事業
- ⑩対外サービス(地域文庫、
読書会、学校等への支援)
- ⑪図書館利用が困難な人々
へのサービス(傷害を持つ
人々、病院の入院患者、外
国人)



3. 中央図書館の機能とサ ービス

- ①地域図書館としての機能
- ②地域図書館を越えるサー
ビスを提供する機能
- ③地域図書館との連絡調整
機能
- ④町田市立図書館以外の図
書館との連絡協力機能

4. 職員の問題

図書館の問題は、かなり
の部分職員によるところが
大きい。人材の豊かさが必
要である。中央図書館だけ
でなく、地域図書館こそ人
材が必要である。そのため
にもきちんと研修の場を保
障していくことが大事であ
る。定期的な館内異動を行
い、図書館の仕事全体を理

解してもらおうようにしている。将来図書館のリーダーになりそうな人材については、移動図書館を持つ地域図書館を経験させたいと考えている。

「館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、図書館奉仕の機能の達成に務めなければならない。」(図書館法13条第2項)「館長は、図書館の管理運営に必要な知識・経験を有し、図書館の役割及び任務を自覚して、図書館機能を十分発揮させられるよう不断に務めるものとする。」「館長となる者は、司書となる資格を有するものが望ましい。」(公立図書館の設置及び運営上の望ましい基

準)

専門職制度については、図書館サービスの充実・向上を図るうえでも、住民の高度で多様な要求に適切に応えていくためにも職員の専門性は大事なことである。しかし一方で、人件費削減のため非常勤職員、臨時職員が目立つ。

5. 今後の図書館のあり方

・図書館の基本的な役割である資料、情報提供の機能は、どのように変化するのか。

・予約、リクエストサービスは、どのようになるのか。

・地域電子図書館構想とは？

- ・職員の資質
- ・施設
- ・資料費を含む予算
- ・「無料の原則」は、どうなるのか。

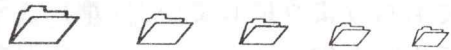
6. 図書館作り運動の展望

今後の課題は山積みされている。自治体の財政危機、職員増員の困難な状況等々。図書館に何を求めるかは、利用者・住民が決定すべきことである。図書館協議会の活用も大事である。地域の状況を踏まえ、利用者の声を十分に反映した図書館の運営がなされなければならない。(文責 神田)

講演会「市民と図書館－町田市立図書館の実践－」

講師	手嶋孝典氏 (町田市立図書館副館長)
内容	不安な社会情勢の中、図書館を取り巻く環境も大変厳しいものがあります。私たち市民にとって図書館とは？ 町田市立図書館の実践から学び、日野市の図書館のこれからを考えてみませんか。
日時	4月21日(日曜日) 13時15分～ 受付開始 13時30分～15時30分 講演及び質疑応答
場所	日野市生活・保健センター2階講座室
資料代	200円

「図書館の会」参加報告



日時：2002年2月28日

午後1時30分～4時30分

場所：ルネ小平（小平市）

多摩地区の図書館に関わりながら活動している市民の自主的な集まりである「図書館の会」の定例会が開かれた。多摩6市と杉並区からもひとり参加して、各地区の活動報告・会の今後の運営について話し合われ、そのあと山口先生から「都立多摩図書館の問題」の現状報告があった。

都立多摩図書館問題については、地域によって格差があり、調布市では図書館長自身が怒って市長や議会に働き掛け、また職員のバックアップもしていると報告。小平では文庫連も図書館自体もあまり動かないとのこと。多摩市は文庫連で陳情書を提出。東久留米市は文教委員会の方から都に意見書を出した。日野市も「図書館を考える会」

で陳情書を提出し採択されるなど、それぞれの地区でも動いているが、現状は情報公開がなされず、トップダウンでことが運ばれていくなど悲観的意見が多かった。

また市民と図書館員と協力し合いながら取りくんでいかなければならない運動でありながら、市民がどういう立場に関わればいいのか位置づけがはっきりしないという意見が出た。図書館を取り巻く厳しい現状の中で現実形として表われた都立多摩図書館問題は、まだほんの序の口で、今後いろいろな出てくる息の長い運動と私は見ているが、そうするとこれからの運動の進め方をどうするか問われていくと思う。

そのほか学校図書館司書の話も出た。増やされる地区、減らされる地区など自治体事情の格差もあり、真剣に考えれば考えるほど前途多難な気がした。

（文責 久保田記）

日野市立中央図書館見学報告

昨年の6月30日（土）午後、会員6名で、日野市立中央図書館を見学してきました。会員と館長との初めての顔合わせということで、まず、参加者各自から日頃利用している図書館についての印象などを述べた後、先日明星大学で行われた小川館長の基調講演の感想、資料費削減の問題、新しい分館構想（公団多摩平団地建て替えに伴う新多摩平図書館開設）、今後の図書館の方向性等について意見を交えました。その後、日頃なかなか目にすることのできない図書館内部をひととおり案内してもらいました。利用者の生の声を伝え、また図書館側の考え方も直接聞くことができるこうした機会をこれからも積極的に設けていくことの必要性を強く感じました。

都立多摩図書館があぶない！

都立多摩図書館（立川市錦町）は1987年の開館以来、三多摩の市町村立図書館のバックアップ図書館（図書館の図書館とも言います）として、市町村立図書館で所蔵していない資料（図書・雑誌）を貸出してくれる「協力貸出」や市町村立図書館では解決できなかったレファレンスについて応えてくれる「協力レファレンス」など、全国の県立図書館に先駆け、特徴あるサービスを精力的に展開してきましたが、この度の都立図書館再編計画により大きく変わろうとしています。

計画では、これまでの地域分担制から、都立中央図書館を中央館、都立日比谷と都立多摩図書館を一分館とし、都立多摩図書館は今後、文学（といっても小説類に限り全集や研究書は中央図書館で所蔵）と児童・青少年資料（都立日比谷図書館から移管）、多摩行政郷土資料、新聞・雑誌を所蔵する図書館に改めるといいます。

また、都立日比谷図書館の児童・青少年資料を多摩図書館に移管するため、都

立中央図書館と重複する、**14万冊を2001年度内に処分**するというのです（これは先駆けて今後都立多摩図書館の**70万冊近い資料が処分の対象**となるのです）。

これまで都立図書館が2冊持っていてくれたおかげで、市町村立図書館を通じて利用できていたものが、今後はそうはいかなくなることは必至です。

これまでより取り寄せまでに時間がかかったり、区部の利用者との競合が起きることも予想されます。

また、一般の資料が消えることで、必要ならば都立中央図書館まで直接出向かなければならなくなることも多くなるでしょう。

行政郷土資料についても多摩地域資料のみと言います。私たちの生活を取りまく問題は都全体の資料があつてはじめて解決するのではないのでしょうか。全く名ばかりの機能分担ではありませんか。

都立多摩図書館設立時のような市町村立図書館との協議など一切なく進められたこのような計画に対し、市町村立図書館の職員や市

民から反対の声が上がっています。当会も市議会に対しこの再編計画の見直しを求める陳情を提出、議会はこのを受け、都知事宛に意見書を提出してくれました。他の自治体でも議員はもとより各種の団体から議会に対し請願・陳情等が提出され採択されています。

都議会に対しても2団体から請願が提出され、2月の文教委員会で審議されましたが、私たちの思いとは裏腹に結果は保留という結果となりました。議会は、14万冊という本が散逸してしまうことが利用者にとれだけ影響を及ぼすかを正しく判断できなかったようです。

2月末に都立多摩図書館は再活用の名の下に10万冊近い本の処分を断行しました。このままでは残された資料についても同じように処分してしまうことでしょう。

今回の都立図書館の政策判断には利用者である都民の意見が全く反映されていません。今こそ利用者である私たち都民から大きな声で異議を唱えようではありませんか。

日野の図書館を考える会活動報告

2001年

8月30日(木)

・図書館の会参加 神田・久保田

9月 7日(金) 定例会
(女性センター) 4名参加

・通信第3号について

・小川町立図書館見学について

・図書館協議会委員との懇談会について

・『図書館のめざすもの』をテキストとして勉強会を開催する件

・通信第4号について

・市立病院のラウンジに図書コーナーを設置要請の件

9月26日(水) 小川町立図書館見学会 11名参加

10月 8日(月) 事務局会議(フレッシュネスバーガー)

・11月2日の例会について

・通信第4号について

10月25日(木) 図書館の会参加 久保田

11月 2日(金) 定例会
(女性センター) 8名参加

・小川町立図書館見学報告

・図書館の会参加報告

・図書館協議会について

・都立多摩図書館再編の問題について

・日野市の学校図書館をよくなる会について

12月 2日(日) 事務局会議(フレッシュネスバーガー)

・陳情書について

・総会について

12月10日(月) 日野市議会議長宛「都立図書館再編計画」に関する意見書提出を求める陳情書提出(12月17日生活文教委員会採択)

12月21日(月) 東京都知事・東京都教育長宛「都立図書館再編計画」に関する

意見書提出

2002年

1月11日(金) 定例会(女性センター) 4名参加

・都立図書館再編問題について

・総会について

2月17日(日) 事務局会議(フレッシュネスバーガー)

・総会・講演会について

2月28日(水)

・図書館の会参加 久保田

3月8日(金) 定例会(女性センター) 8名参加

・総会・講演会について

・都立図書館再編問題について

3月18・25日(月) 生活・保健センター

・通信4号・講演会ビラ印刷

※この通信は点訳版もあります。ご希望の方は事務局までお申し出下さい。

※三多摩図書館研究所のホームページ

(<http://www.hinocatv.ne.jp/~jelhyg/>) の関係団体情報コーナーに、「日野の図書館を考える会」のページが掲載されています。

ひののとしょかんを考える会通信 No. 4

2002年3月25発行

発行者 日野の図書館を考える会

〒191-0062 日野市多摩平2-9

久保田 正子 TEL 042-583-0960